

ねらい	AFPY 等の活動を通して、協力することの大切さを認識し、人間関係づくりに役立てる。		
教科・領域	特別活動	時間	70 分間
対象	中学 1 年生	人数	約 20 人
活動の流れ	活動名	概要	○留意点 ●指導者の視点
	心のゾーンチェック	○質問に対して、心の状態（安心／チャレンジ／パニック）を立ち位置で表し、お互いの感じ方の違いを知る。 	○質問項目 ・家でくつろいでいる時 ・分からない問題を当てられた時 ・あまり話さない人に話しかける時 ・活動前の今の気持ち ●ペアを作るために自分から声を掛けているか、待っているか。 ●男女の関わりはどうか。 ●勝敗ではなく、関わりを楽しむ雰囲気があるか。
	じゃんけん ※アクティビティ集参照	○ペアでじゃんけんをし、あいこになったら成功。 ○ペアでじゃんけんをし、相手の出した手を「石・鉄・紙」のどれかで早く言い合う。 ○ペアでじゃんけんをし、ゲーム 100 円・チョコキ 20 円・パー 5 円として、たし算をする。 ○ペアで 1 回だけじゃんけんをし、あいこになったら成功。3 人とあいこになった人から輪になる。目標は全員クリア。	●目標達成のため、クリアした人がどんな動きをしているか。 ●みんなでエラーを楽しむ雰囲気があるか。「キャッチ」の掛け声を言う一歩を踏み出せるか。
	キャッチ ※アクティビティ集参照	○全員で輪になり、左手は上向き、右手は短いロープを持って、隣の左手の上に垂らす。「キャッチ」の掛け声で、左手はロープをつかみ、右手のロープは逃げる。	●慣れてきたら、①言われたことと逆の言葉・動作、②言われたとおりの動作・逆の言葉等のバリエーションを試す。 ●エラーがあってもみんなで活動を楽しむことができているか。
	前後左右 （4 方向ジャンプ） ※アクティビティ集参照	○全員で輪になり隣の人と手をつなぐ。指導者が「前」と言ったら、全員で「前」と言いながら、一歩前に跳ぶ。「後ろ」「右」「左」を含め、ランダムにテンポよく繰り返す。	●エラーを繰り返すのではなく、活かすことができているか。 ●息を合わせるために、どんな工夫が見られるか。
フライングチキン ※アクティビティ集参照	○4～6 人組で 1 枚のレジャーシートを持ち、2 グループで向かい合う。片方のグループのレジャーシートにぬいぐるみを載せ、手を使わず、落とさないようにパスし合う。以下のようなバリエーションに挑戦する。		

	パイプライン ※アクティビティ集参照	<ul style="list-style-type: none"> ・成功したら距離を離す。 ・制限時間内のパス回数を増やす。 ・リレー形式でスタートからゴールまでぬいぐるみを運ぶ。 ○全員で一人ひとりが持っているハーフパイプを使って、ピンポン玉を落とさずゴールまで運ぶ。 ・ピンポン玉を載せている時は歩けない。 ・スタートしたらピンポン玉を直接触れない。 ・途中でピンポン玉を落としたらスタートから再開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●エラーが起こった時に、どんな声掛けがあるか。 ●エラーをどのように修正しながら取り組んでいるか。 ○活動への参加が一部の人に偏る場合は、スタート時の順番を最後まで守るようにする方法も有効。
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○活動を通して今の満足度は？その理由は？ ○活動前と後を比べて心の状態にどんな変化があったか。 		
準備物	短ロープ、レジャーシート、ぬいぐるみ、ストップウォッチ、ハーフパイプ、ピンポン玉、バケツ（ゴール）		
参加者の様子や感想	<ul style="list-style-type: none"> ○初めのうちは全体的に固さを感じたが、じゃんけん等のアイスブレイクを通して、徐々に笑い声上がり、気持ちがほぐれていった。 ○パイプラインの最中、ゴール手前で落としてしまう失敗が3回ぐらい続いたため、一度止めて、全員で作戦の共通理解を図った。並びを交互にする、「止めて」と声をかける、半分まで進んだら徐々に高度を下げる等、様々なアイデアを全員で共有したことで、その後のチャレンジにおいて、自分の意見を全員に伝えようとする姿勢が生まれた。最後のチャレンジで見事ゴールまで運ぶことができ、全員で達成感を味わうことができた。 		
指導に係る気付き	<ul style="list-style-type: none"> ○活動に多くの時間を使ってしまい、十分な振り返りができなかった。小グループ等で、活動を通しての満足度や学びについて話し合えるぐらいの時間を確保できるとよかった。 		